

## 安全への取り組みについて(案) Part-1

私たち業界の「事故や災害の多くは仕込み時間に集中しています。」  
私たちの作業は、その性質上いくつかの業種が同時に作業を行い組み合わせないと成り立ちません。そうした混在作業では少しのミスが関連作業の遅れや作業変更など時間を費やすこととなり結果“ヒューマンエラー”を引き起こす原因にもなっています。業界の事故や災害の85%~94%は“ヒューマンエラー”です。ヒューマンエラーを“ゼロ”にすることは難しくとも、減らしことは可能です。

事故や災害を減らすためにいろいろな取り組みをしていることと思いますが、最も基本となることのひとつが、「そこに係るすべての人が安全衛生活動に心がけ段階的に安全衛生水準向上を図ることです。」現場の安全衛生責任者は、常に危険予知と早めの予防対策の実施に心がけ作業者の安全作業に留意しなくてはなりません。

私たちの仕事は、見る人たちに「夢や感動・希望」を与えることでもありますが、そこで働く一人一人にも夢や希望があります。何れの人々の夢や感動・希望も事故や災害で失ってはなりません。

現場の労働安全衛生責任者の役割は重要ですが、作業員一人一人自らが安全作業に対し自己革新能力を発揮することが事故災害減少の近道です。

安全の目的は、怪我をしない・させない、自分自身を守ること・働く仲間を守ること・ルールと安全技術を守ること。

### 図①：安全のもくてき

- ・ 自分自身を守ることから
- ・ 部下や仲間を守る（安全配慮義務）
- ・ ルール・安全技術を守る

災害の起こる要因は、下図で示す通り人が危険性や有害性要因に対し放置することにあります。危険性や有害性を見つけそのリスクの高さをイメージできればその対策を行うことは必然です。そのリスクの存在を放置することが労働災害の発生する原因となっています。

### 図②：危険性及び有害性要因が労働災害に至る原因

